

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	固体音小委員会	主 査 名：中澤真司 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：佐土原聡 主 査 名：濱田幸雄
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>床衝撃音遮断性能は、現在 AIJES 作成作業が進められている集合住宅を対象とした遮音性能規準と設計指針の中で評価項目として挙げられている。また、近年の建築性能の向上、住まい方の違いなどにより、従来の床衝撃音遮断性能に関する評価方法の見直しが強く迫られている。そこで、本小委員会では、床衝撃音遮断性能の測定・評価方法に関する諸課題を解決するため、各種検討を実施する。</p> <p>2012 年度の活動計画</p> <p>○床衝撃音レベルの測定・評価に関する既往文献を調査し諸課題を抽出、まとめを行う（集合住宅を対象とした遮音性能規準と設計指針の AIJES 化に向け、床衝撃音遮断性能に関する検討用資料とする）</p> <p>○床衝撃音遮断性能評価に関わる聴感試験</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：有 (2012 年度)</p> <p>主査：中澤真司 (鉄建建設)</p> <p>幹事：稲留康一 (奥村組)</p> <p>委員：岩本毅 (三井住友建設)、井上勝夫 (日大理工)、漆戸幸雄 (フジタ)、河原塚透 (大成建設)、田中学 (日総試)、中川清 (音工学研究所)、中森俊介 (小林理研)、濱田幸雄 (日大工)、平松友孝 (音・環境研究所)、平光厚雄 (建研)、藤橋克己 (前田建設)、松岡明彦 (戸田建設)、矢入幹記 (鹿島建設)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>○固体音測定法検討WG</p> <p>鉄道振動・固体音の測定法は規格化されていないために、各機関がそれぞれの方法で測定を行っている状態である。そこで、鉄道振動・固体音等の測定方法に関する検討を行い、測定法の統一化に向けての一助とする。</p>	
2010 年度予算	57,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>ほぼ今年度の活動計画通りに推進できている。なお、今フェイズにおける成果については、2013 年度大会 OS にて発表を予定している。</p> <p>1. 床衝撃音測定・評価に関する既往文献調査のまとめた (年度末予定)</p> <p>2. 聴感試験を実施し分析用のデータを得た</p>
委員会活の問題点・課題	

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>今フェイズの固体音小委員会では床衝撃音の測定法や評価法に関する検討を実施した。</p> <p>床衝撃音測定に関する検討では、委員が保有しているタイヤ衝撃源とボール衝撃源による床衝撃音測定結果を収集し統計的な処理を行って、両者の対応や最大A特性床衝撃音レベルの算定方法について検討を行った。これらの結果は、建築学会大会(OS)や騒音制御工学会発表会で公表している。</p> <p>床衝撃音評価に関する検討では、各種床衝撃音による聴感試験を実施し、最大A特性床衝撃音レベルと感覚量の関係を把握した。</p> <p>2012年3月10日にシンポジウムを開催(参加者:80名)し、今後の床衝撃音測定および評価に関する活発な討論が行われた。</p> <p>小委員会活動のこれまでの成果として以下の口頭発表を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2010年大会発表(1編): 建築音響関係者を対象とした床衝撃音聴感評価実験結果の検討 –最大A特性床衝撃音レベル並びにL数と各種主観評価量の対応– ・ 2011年日本騒音制御工学会春季発表会発表予定(1編): 床衝撃音レベル等級とA特性床衝撃音レベルの対応に関する検討 ・ 2011年大会OS発表(2編): ①聴感評価実験結果に関して、②床衝撃音の測定・評価方法に関して ・ 2013年大会OSに発表予定(1編)

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A評価: 小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B評価: 小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C評価: 小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D評価: 小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。